

6月18日討論要旨（中国の開発と環境）

林礼釗（STA）

Guiding Question：環境問題は近代化が内包する本質と直接的に関わる課題である。その意味において、環境問題解決への道は、私たちの内面の変化の問題と言える。中国では社会主義体制が支配的である一方、市民の自発的行動により、環境保護や人間の健康、食の安全・安心の確保に対する取り組みがなされ、状況は変化しつつある。柴静の『穹頂之下』を見て、中国の環境問題を解決するため、私たちは何をすべきか、何ができるかを考えよう。A 柴静の『穹頂之下』に対する感想：a よかった点、b 課題、c 批判。B 「青空を見たいプロジェクト」を企画。C 「青空を見たいプロジェクト」を実施する方法。D 「青空を見たいプロジェクト」から期待できる効果。

討論では、各問題について主に以下の意見が提起された。

1. A-a よかった点：データが多く、客観的である。身近に感じる。A-b 課題：政府に対して対策を提言しなければならない。A-c 批判：なぜ2004年には訴えなかったか。「母親」という色が強く、同情を買う部分とデータで煽っている部分がある。B 「環境教育の土台作り」を企画したい。C ゴミ処理所や汚水処理所などを見学する。また、データを収集・共有したり、インターネットを活用したり、テレビ番組を作ったりする。D 子供への意識付けができる。親にも影響できる。
2. A-a よかった点：データ、数値を示し、動画を使い、説明が分かりやすい。内部資料まで使用しており、もっと真実が分かる。A-c 批判：内部資料の流出が、中国の環境問題を批判するために外国に利用されやすい。また、「母親」の視点から同情を引く感じが強い。あと一般性がない。地域に差が存在し、他の地域のデータも必要である。B 「『出かけ』からやりましょう」を企画したい。出かけの交通手段を考える。C 公共交通機関を利用する。消費税や自動車税などを調整する（エコカーは減税）。
3. A-a よかった点：詳細なデータや数値を示し、PM2.5の危険性が分かりやすい。C 大気汚染問題に大きくかかわっているのが車の排気ガスであるため、公共交通を整備したり、企業がグリーンエネルギーを使う車を利用したりすることが重要である。また、「移動」を減少する。インターネットが発達している今、オフィスに集まって会議する必要はなく、自宅で仕事する。教育の面では、インターネットを使って、遠隔教育で自宅で授業を受ける。
4. A-a よかった点：分かりやすい。共感を引き起こす。無料で見られる。A-b 課題：一人ひとりが当事者として協力することを呼びかける。A-c 批判：インパクトが強いため、社会的なパニックを起こす恐れがある。海外への流出によって中国のイメージダウンにつながり、観光に悪影響がある。B 「エコカー普及推進プロジェクト」を考えている。日本の企業によるエコカーの技術革新がその普及の可能性をもたらす。C エコカーを購入・利用する。D ガソリンの使用を減少できる。

担当教員の総括：論点をまとめると、よかった点としては分かりやすさ、大量のデータの使用、無料等があげられる。批判すべき点としては、感情的に訴えた部分があると思う。より客観的に語ったほうが良いということは当然のことだが、中国では市民が語るチャンスが少ないことに注意する必要がある。そして、「現場を見る」という考えは大事だと思う。また、消費者としての意識は多く強調されている。エコカーや公共交通機関の利用、「移動」の減少などこのような視点は大事であり、さらに発展してほしい。また、このような映像の海外への流出は悪影響をもたらすという論点について、それは逆だと考える。中国を知ることによって中国に対する態度がよくなるはずである。情報が隠され、自分のことを知らないことが逆に反感を買ってしまう。さらに、「南北に差がある」という論点について、PM2.5に関する調査によると（汚染状況は北京が17位、昆明が12位）、決して「南の状況は良い」とはいえない。現在は新疆やチベット等を除いて、PM2.5は全国的な問題だと認識したほうが良いと思う。最後に、中国の三つの問題を指摘したい。第一、「環境問題は自分のところには来ない。自分が住んでいる地域はまだ大丈夫」という民衆の僥倖心理である。第二、政府の問題である。中国では政府による主導が中心となって、市民のやれる範囲は限られている。また、教育にも問題が存在している。第三、環境問題をナショナリズム問題として大きく考えてしまう。事実は大事であり、それを知った上で課題を解決していくことが重要である。